

第69回市民ふれあいトーク 【一緒に考えるこのまちの地域力】

日時 平成29年3月16日 18:30~20:00

場所 まびいきいきプラザ

要約版

《市長》

皆さんこんばんは。今日は夕方のお忙しいお時間の中で市民ふれあいトークにご参加いただきまして大変ありがとうございます。真備のこの場所で前回のふれあいトークは、3年ぐらい前だったんじゃないかと思います。25年の時には「地域の絆」をテーマとしてここでやり、その2、3年前に公民館でやったので、久しぶりでございます。今回が69回目ということで、各地区の公民館、またテーマによっては施設の方に私がお伺いしまして、地域の皆様と意見交換をさせていただいて、今後の市政の方向性の中で参考にさせていただきたいということでこの市民ふれあいトークを開催させていただいております。すぐ分からない事もたくさんあるかと思いますが、皆さんが今どういうところに関心を持っていただいているのかということをお話させていただくことが一番大きなテーマかなと思っております。私の方から最初15分くらい、今の市の状況とか、最近の真備をめぐる状況とかお話しさせていただいて、それで意見交換をさせていただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

さて、一番最近あった倉敷市の大きな行事が何かと言いますと、この前の週末にありました3月11日、12日の瀬戸内倉敷ツーデーマーチでございます。大変多くの方が真備の中を歩いていらして、見られた方も多いのではないかと思います。この瀬戸内倉敷ツーデーマーチはちょうど30回目でございます。30年前と言いますと昭和62年。瀬戸大橋が開通する前の年でございます。それで昭和62年というのが、倉敷市が倉敷、児島、玉島の3市合併をしましてからちょうど20年。それから翌年には瀬戸大橋が開通するというので記念の行事、健康のまちづくりということで始まりましたのが、昭和62年でございます。以来30回目ということで、今年30回の記念の大会になったわけでございます。このコースが5キロ、10キロ、20キロ、40キロとありまして、真備の方にもお世話になった吉備真備コースだったんですけど、実は皆さんから是非30回で30キロということで、かつ去年の1月に倉敷大橋が開通いたしまして、倉敷大橋を渡りたいという声を非常に多く寄せてくださりまして、30キロコースを今年新設いたしました。そうしましたところ、これまで歴代の参加者の中でこの30キロコースが、大体2日目のコースが600~700人くらいの参加なんですけれど、何と2倍以上1,743人の方が参加されまして、皆さん大変喜ばれていました。終わった後にアンケートを書いてくださる方がたくさんいらっしゃったんですけど、その中からいくつか持ってきました。「金峯寺で通行手形がもらえてよかった」。地区の皆さんが準備してくださいました。「倉敷大橋の橋からの景色がとにかくよかった」、「船穂の一口水門がパナマ運河より古いということで、日本の技術力がすごいなと思った」。奈良県から来てくださった方で「ヤンマーさんが出してくれた苺とトマトが美味しかった」。香川県から来られた方が、横溝正史疎開宅に行った時に「金田一が今にも出て来そうですごかった」。皆さん全般的に「竹林が見事だった」。それから「のどかな田園風景がよかった」。津山の方ですね。「30キロという距離が程よくて来年もこのコースがあったらぜひ参加したい」という方が非常に多かったですね。「葡萄や竹の子のデザインされたマンホールや橋が印象的だった」。兵庫県から来た方。ま

だ来年の30キロコースが行われるかどうかは決まっていはいないんですけど、非常に評判が良かったということで、この真備の吉備真備コース、本当に地域の皆さんのご協力によりまして、いろんなおもてなしをしていただいたり、甘酒を出していただいたりということで、本当にありがとうございました。

さて、その倉敷大橋なんですけれども、皆さんほとんどの方が通られたかと思うんですけど、この倉敷市内の北西部の交通の大動脈になりまして、いろんな渋滞緩和ができております。川辺橋の朝の渋滞の緩和も、かなり良くなったのではないかと思います。市の街路課が調べましたところ、1日12時間で大体17,000台ぐらい通っていたのが、南に行かれる方が増えて13,500台ぐらいに減ったということで、かなり交通量が分散しているということのようです。この倉敷大橋を通られる方は、一日ではないんですけど12時間で大体5,000台ぐらい通っているということで、本当に合併の時には是非この橋をと言っていたいただいておりましたのが、何とか皆さんにうまく使っていただいているのかなというふうに思っております。そしてこの真備のいきいきプラザ、健康福祉館が平成23年の4月にオープンいたしましたので、もうすぐ6年になりますけれども、本当に多くの皆さんに使っていただいております。それから倉敷市といたしましては、吉備真備さんの顕彰を皆さんと一緒に行っていきたいということで、先ほどのコースの名前もそうでしたし、それからくらしき吉備真備杯子ども棋聖戦ということで全国の子どものための囲碁の大会を、もう6回目ですかね、開催をしまして、以前は張栩さん、今は井山裕太さんが来ていただいております。囲碁界、また将棋の皆さんも真備のことを知っていただいて、全国の中でも段々発信の方も大きくなってきているんじゃないかというふうに思っております。また平成26年からはまきび支援学校も開校いたしまして、多くの生徒さんが井原線なども使って通学をいただいております。県立の高校の中でも非常に素晴らしい環境の中で、そして学校の教育もいいということで人気も高く、こちらに是非来たいという方がとても多いという状況でございます。

さて真備の大きな課題が安全、安心のことでございます。昭和47年の大水害から今四十何年か経っております、その中で大きな課題でありました小田川の付け替え事業ですけど、おかげさまで平成26年度から事業着手しまして、今は船穂の地域の皆さんのご理解をいただきまして、中の畑地の所を引っ越していただいたり、また補償いたしましたり、倉敷大橋を渡って今は県道のバイパスで水菱さんの方へ行く所はちょっときれいになっていますけれども、新幹線の方へ行った所では左に曲がって結構急になりますので、バイパスで行けるように、あと5、6年ぐらいはかかると思いますけれども、国と県と一緒に進めていこうということで取組をいただいているところでございます。この小田川の付け替えをいたしましたら、(地図を示しながら)こちらの所で合流しまして、度々逆流していましたが、こっちの本流の方と小田川と別れて合流点が4キロぐらい下流になりますので、この高梁川の水流に押されて水が戻ってくるということがなくなりますので、小田川の矢形橋の所の水位はこの洪水の時には今よりは5メートルぐらい下がると言われております。そして、逆にこの小田川の水流が倉敷の地区の方の酒津の辺りまで来ていたのが、それが来なくなるということで酒津の方の水位も50~60センチぐらい下がるといって、両方にとってもちろん真備にとって一番安全に進むわけですけど、この事業が国の工事の予定では平成30年度ぐらいから仮設の道路とかの工事を始めてくださいます、今の予定では本格的には平成31年度から大きな事業ですので10年ぐらいはか

かるんじゃないかと言われております。とにかく皆さんにはこの小田川の付け替えを元気で見ていただいてバイパスも渡っていただくということをお願いしたいと思っております。

さて倉敷市全体の状況ですけれど、去年おかげさまでサミットの教育大臣会合を開催することができました。それによって倉敷の美観地区の辺りの海外から来られている方の観光客の数も増えています。昔は美観地区もなかなか平日はお客さんが歩いていなかったんですけれど、今は平日でも海外の方も結構来られています。それから最近注目されておりますのが、児島のジーンズストリート、もう一つは明後日から封切られます「ひるね姫」という児島、下津井を舞台にした映画でございます。「ひるね姫」、実は一昨日児島で地区の関係者の方と、それから児島の高校生、主人公が女子高校生なんで、特に女子高校生を招待しましてプレミアム試写会があったんですが、監督さんと声優の方が二人来られました。主人公の声優の方は「とと姉ちゃん」の主人公の高畑充希さんという方で、来られなかったんですが、倉敷市出身で携帯電話のコマーシャルに出られて一寸法師の役をしている前野朋哉君という方と、それから満島真之介さんと言ってお姉さんが満島ひかりさんという非常に姉弟で有名な方と二人、それと監督さんが来られました。監督さんが言われるには、「君の名は」という映画などが今有名で、アニメの中で各地が舞台になっているんだけど、いろいろ場所を探す中で大阪から出発してずっと瀬戸内を行ってみて良い場所があったらそれを舞台にしてアニメの映画を作りたいなと考えていたんですと。大阪からずっと車で来て、それで児島のジーンズが有名なんでジーンズストリートの辺りに行って、それから瀬戸大橋の下の所辺りまで行って西の方へ出てみようと思ったら瀬戸大橋を下から見る所の景色があまりにもすごかった。そしてもうちょっと行ったら、何とものどかな下津井の漁港があって、そこがあまりにも気に入って、もうここで映画を作ろうと思ってそこから先に行くのを止めました、ということでそこで決まって、倉敷市が全般的には映画の舞台にしてもらいたいという誘致活動はしてたんですけど、この映画について特段には言ってなかったんです。ですので、向こうの方からいろいろ協力してもらいたいと言ってこられまして作ってくださって、全国公開ということになりました。今バスや電車の方もJRさんも協力していただいて、車体に「ひるね姫」のラッピングをしたものが岡山県内とか東は兵庫、西は広島、南は香川ぐらいまでは走っています。3月18日から全国のロードショーということになりますから、皆さん、また家族の方にもご紹介いただければと思っております。

同じ児島ではジーンズが非常に有名になっておりますけれど、今日私が着ております服は、いつものようにデニムの服なんですけど、実は上着が、真備の竹炭生産組合の皆さんで焼いてくださっているあの竹炭を児島の服のメーカーの方が砕いて定着剤でデニムのジーンズに定着させて、1年半ぐらいかけて開発をしてくださった、試供品なんです。市長がまず着て、着心地とかちょっとみてくださいと。その児島のメーカーの方は非常に真備の竹、竹炭のことを評価されておまして、さっきのツーデーマーチの時でも、竹林、竹のこと、海外から来られた方も言われてたんですよ、日本の竹というのは非常に素晴らしいと。竹というのは元気な生命にもつながるということで、海外の方は竹のことが非常に好きだということをおっしゃっておりますので、竹を活かしたまちづくりということに今後とも頑張っていきたいと思っております。

それでは「一緒に考えるこのまちの地域力」ということで、今皆さんが考えていること、

こういうところをもっと頑張っていきたい、もしくは倉敷市としてこういうところをもっと前面に押し出していったらいいんじゃないかということで、お話しをしていただける方、是非手を挙げていただければと思います。橋ができてどうかとか、竹の子と吉備真備さんのこと、それから倉敷市と真備、船穂が合併していただきまして平成17年の8月からですから、今10年ちょっとぐらいですけど、それでどう変わった様に感じるかとか、お聞きしたいなと思っております。

《参加者 A さん》

まちづくりの会長と、環境衛生の支部長をしております。普段から、ちょっと考えることがあるんですけど、ゴミ箱についてお聞きしたいと思います。市の管理している公園とか、例えばこの川辺宿駅の前の駐車場、そこにもゴミ箱があったんですけど、最近見当たらなくなっていた。その代り、ペットボトルとか、それはあるんです。それはね、ゴミを回収する人がほんとに一生懸命始末してくださってるんですけど、なんかたまに見る時にはいっぱい山になってるんです。結局最終的にはゴミ箱はなくなってる。倉敷市全体で、我々の税金でやってるんですが、ゴミ箱は公園なんか、なかなか少ないんですね。この辺は何か考えていかなきゃならんのかなど。環境衛生もやってるんですけど、そういうことを感じております。それは行政自体でやる場合もあるし、例えばボランティアで回収するシステムを作って、できるだけゴミは持ち帰ってください、なかったらこれを利用してくださいと。そうせんかぎり、ポイ捨てが多いんですよ。川辺のあるコンビニなんかは、ゴミ箱を店の中に入れてとるんです。とんでもないことなんです。そのコンビニさんの弁当なんか買われた包みなんかがたくさん、多いんです。そういうことで我々としても、何ともできないのでゴミ箱はあって管理を何とかして、その辺を市と協議して、何とか解決したいなというのが一つあるんです。そのことをお聞きしたいと思います。

《市長》

はい、ありがとうございます。ゴミ箱が少ないということではないかと思えます。コンビニの中に入れてるんですかね。コンビニが一般の家庭の分を持ってくる人がいるとそれで。特に有料の所が多くなってきております。もちろん真備では袋を買っていただいているんですけど、他の地区はもっと高い袋もありますので、他の所でもゴミを自分で出すよりも、コンビニでも「家庭ゴミを持ち込まないでください」と結構書いている状況にはなってます。それで今言われたんですけど、今全市的になるべくゴミは持ち帰りましょうという方向の活動にはなっていて、ゴミ箱が増えていくという状況ではないですけど、ただポイ捨てがあったらいけない、ということだと思います。それでポイ捨ての状況はどうですかね？

《参加者 A さん》

大分改善されとるんですけど、大きなゴミが、買い物袋をそのままポーンと捨てることがありますね。それでゴミステーションに出してくださればいいんですけど、なかなかそれも面倒なのかどうなのか、夜になったら捨てておられる方が多いです。不法投棄ですね。普通の人は捨てないんですけど。そういうのをなんとかしたいなという気持ちになります。

《市長》

環境の皆さんにはいろいろご協力をいただいております、ゴミ箱だけじゃなく、イエローカードの犬のフンのこととかもいろいろご協力をいただいております。少しでもきれいな町をというように、と思っているんですけど、今のところはゴミ箱は減らすという方向にはなってるんですけど、なるべく皆さんのご協力をいただいて、きれいな町づくりに頑張りたいと思います。どうもありがとうございます。

《参加者 B さん》

川辺のまちづくりをしております。市道かどうか分からないところがあるんですが、一般の道路にある横断歩道、あれが消えてなくなっているところが非常にたくさんあります。私も毎朝子どもたちの交通安全のために立っているわけですけど、小さい交差点の所でも、子どもさんが、「いったん止まれ」という足型を、つけている。それもなくなっている所がたくさんあります。そのへんのところを、とにかく交通事故を無くしていきたいということをおっしゃるので、そのような所、例えば先ほどの消えかかっている所、ちょうどそこの道をまっすぐ行った所、中国銀行とディオのあるところ、そこの所の前にある横断歩道、これ、完全に消えている。そういう所がいろいろあるので、ひとつ交通安全のためによりしくお願いしたい。

《市長》

大きなところの分ですよね。分かりました。調べてみます。横断歩道は安全の基本ですから、県とかもどんどんやってくれるわけではないんですけど、優先順位でここからやってもらいたいと要望の仕方もあると思いますので、交通のチェックのことで皆さんのご協力をいただくことも多いかと思いますが安全に気をつけるようにやっていきたいと思っております。ありがとうございます。

《参加者 C さん》

真備の竹炭生産販売をしております。先ほど市長から、随分いい宣伝をしていただいております。今日私がお話したいのが、いろいろ皆さんグループで、ウォーキングとかゴルフとか運動をされておられる方が随分おると思っています。まあそれは結構なんですけど、元気に体を動かす、やっぱり高齢化していきますと、その中で生産していく喜びですね、作っていくもの、販売していく、そういった動きがあると思いますけど、そういうグループ活動は非常に楽しいものですから、こういうことを広めて、小グループでやると思いますがね。まあ、それは採算を考えればできませんから、半分ボランティアになりますけど。収益事業を絡めたそういうグループを結成する、またはその中には補助もいただくということも可能ではないかと。今日もテオリさんの新しい工場を見学してきましたけどね、素晴らしい経済活動をされておりますけど、やる気があれば年に関係なく、元気に体を動かすということを狙いにすれば、今の真備の炭窯ですね、これを毎日やっています。それも働き方としては、原則午前中の3時間なんです。9時から昼で終わります。まあ釜の出し入れの時はやはり6時から8時間、ということがありますし、3日間火をたくということもあります。長時間になることもあるんですけど、原則そういうことで、その出勤時間も、限られているわけではないんです。朝の都合が悪い人は10時であったり11時であったりしま

す。それで午後までやって帰るか、ということで、非常に和気あいあいと。中には衝突することもありますけど、元気に活動しておるわけで。だからこういうグループの活動を、我々のところを見学していただいて、何かいいアイデアがあればそういうグループを作られてはどうかという提案をしたいと思います。

《市長》 38:45

はい、ありがとうございました。竹炭組合の皆さんの活動を活発にしてください。それで児島の繊維のメーカーの方も、竹炭に目を付けていただいたのは、すごいなと思いましたし、このメーカーはこれから世界にも出ていくメーカーじゃないかと思っておりますので、真備の竹炭が世界に出ていく日も近いと思っております。今言われたように、それぞれのグループが活動していただいておりますし、それが地域の元気の源じゃないかと思っております。もちろんまちづくり推進協議会を中心としまして、また、社会福祉協議会も、皆さんのまちづくりに向けていろいろ活動をやっていただいて、私は本当に素晴らしいと思っております。真備の地区は皆さんのもともとの活動も素晴らしいと思っておりますし、特に健康長寿社会ということでいろいろやっていただいて、民生委員、児童委員、また老人クラブさんや、栄養士や愛育さんなどなど、いろんなグループが活動していただいております。幅広くいろんなことを紹介していければいいなと思っております。ご紹介いただきましてありがとうございました。

《参加者Dさん》

真備町箭田から来ました。ちょっと官に対して苦言になると思うんですけど、お聞きいただきたいと思っております。地方創生というものは各地域の官民一体となった協力体制の元に初めて成り立つものと思っております。まちづくりに、日頃のボランティアに精を出しているんですけど、活動の中には子育て支援とか、あるいは学校支援とかということで、官からの委託を受けてやっている行事がいくつかあります。ところがその場にはどなたも来られませんか、官からはどなたも説明もありません。顔も見せられません。紙切れ一枚で委託されたような形で、責任は誰がとるんだろうと思いつつも、まあやっておるわけですけれども、まあ民間企業で言えば、丸投げの下請けのような感じで、まあ我々のやっている中では、いろいろ支障が出てくるわけです。ところがそのようなことに関して、官からの一体感というものほとんど見られないというのが残念です。それからそういった活動の中には、広い集会所とか、会議場とか、そういう広い場所を必要とすることが結構あるんです。現在はまちづくりの中で、集会場または会議場を使ってやっておりますけど、次第にそれが広がっていくにしたがって、会場も狭く、そうすると官の方に、そういう場所の提供をお願いするお話をしているんですけど、どうも血の通った回答がなくて、非常に残念に思っております。こういったまちづくりをやるために市役所の窓口、たとえば「まちづくり支援課」とか、「支援班」とかそういったものを作っていただければ、さらに進むんじゃないかと思っております。以上です。

《市長》

ありがとうございました。まちづくりの活動のことについてご提言をいただきまして。今例えば子育て支援とか、子育てのまちづくりとか、倉敷市も頑張っているんですけど、

地区で子育て団体の方が活動をしてくださる場合とか、学校で放課後の児童クラブで活動していただく場合など、まあそれぞれ国からの補助がある場合とか、地域の子育て団体として市からの補助の仕組みがあるものとかがあるんですが、そういうので1回手続きをしたら、今度は自分でやってくださいとなっていることなんですかね。市の方も人数不足ということもあると思うんですけど、お願いをしたらそれぞれの団体が、自主的に生かして頑張っていて、あまり市が口出しをするのもどうかな、と思ってるんじゃないかなと思うんですけど。ただ、たまにはお伺いして、いろいろお話を伺ったりということもした方がいいんじゃないかなと思いますので。担当は、市民活動推進課がありましたね？もちろん、真備支所の市民活動推進係の担当部分と、子育てだったら本庁の子育て支援の係とかもあると思いますので、私自身もそうですが、もっといろんな現場の方にお伺いして、お話を伺ったり、意見交換できるように頑張りたいと思います。貴重なご意見、ありがとうございました。

《参加者 E さん》

菌地区で、まちづくり協議会のほうで、いろいろやっております。私、防災対策の面から、2点ほど市長にお願いしたいことがあります。あまり難しいことではありません。最近私が市民の方に聞いた中に、例の緊急情報の無線システムの放送塔ですね、あれが風の関係とか放送塔の向きで少し聞こえにくい部分がある。いざという時は豪雨の中では役に立たないところもあるのではなからうかということ。あのときにサイレンの音を強力に鳴らして緊急を知らせるということを、ぜひやってもらいたい。というのが、言葉で流されても、なかなか理解できないと言われる方が、ちょこちょこありました。本当に緊急な時、いわゆるJアラートですね、物が流れるようなときは特にですね、サイレンをとにかく使ってほしい。サイレンが鳴れば、「何かが起こってる」と。みんながすぐ動いてくれますよ。ということ、市民の方から貴重なアドバイスをいただきました。もう一つは例の小田川の改修のところの問題ですが、やはり最近の大雨・集中豪雨とかで、洪水には非常に神経質になっております、真備町民は。そういったときに、川辺地区、菌地区、箭田地区は、平地に避難所がある。ということで、一時避難場所というのが皆目ないんですよ。なので、逃げ遅れるんじゃないかと、土手が切れると。大変なことになるんじゃないかとこの思いがあります。なので、一時避難場所を、民間の3階建て以上の建物の持ち主と協定を結んで、早急に確保してほしい。とにかく真備地区には一時避難場所がありません、一カ所も。で、とにかく広域避難場所に逃げたり、レベルの高い小学校に逃げる間に、相当な距離を要しますので、その間に皆さん、ほとんど浸かったり流されたりしてしまう、ということがあります。以上、この2点です。

《市長》

ありがとうございました。昨年に作りましたこの洪水ハザードマップを、広報紙と一緒に配って、家で見たな、という方、どれくらいいらっしゃいますか？（挙手）ありがとうございます。おっしゃられるように、洪水のときは×のところが多いです。それで、先ほど言われた避難ビルで、3階建て以上で、たくさん逃げられそうなところは、どこがありますかね。病院、介護施設、学校、市役所、雇用促進住宅、井原線の高架がありましたね。今言われたように、洪水が起きた時、（堤防が）切れないと思いますけど切れた時に、浸か

るという高さになってますので、地域の小学校では上の階に行けば何とかかなりますけど、下の階の方は浸かるということになりますので、一時避難場所としては適切ではないということになってます。それで、真備では避難ビルが、民間との協定がないと。それで避難ビルが民間の商業ビルで、例えば酒津の所ではイオンさんとかショッピングセンターの上に逃げていいですよとか、駐車場がありますからいざというときには。そして水島も標高が低いので、ホテルとか大きな駐車場とか、まあ水島はパチンコ屋さんの駐車場とも、たしか契約したと思うんですけど、そういう大きな駐車場をもっているところと協定を結んでいるところがあるので。真備は今のところないと思いますので、こちらの方から皆さんからいろいろお伺いして、防災から話をしてみても協定を結ぶ、というのをやった方がいいかもしれないですね。ありがとうございました。

それとサイレンですね、今のところは、放送するときは、皆さんがあまりびっくりしてもいけないので、ポンポンポンというふうになってるんですけど、あれじゃ聞こえにくい、という感じですかね。まあ最近窓を閉めていたらほとんど聞こえないというのもあるので、本当に大変そうなときは夜中でも起きてもらわないといけないときもあるので、サイレンを鳴らすとか、そういう方がいいですね。防災にちょっと検討してもらいたいと思います。ありがとうございました。

《参加者Fさん》

真備町ボランティアガイドをしておりますFと申します。吉備真備につきまして、一生懸命よそから来られた方にガイドをしているのですが、「ここには真備さんがおらんなあ」と、「矢掛へ行ったら大きいのがあるよ」という声を聴いたりします。吉備真備の顕彰について、いろいろやっていただいているんですが、なかなかお客さんが来られないと言いますか、暇など言いますか。(市長：まきび公園ですか?) はい、まきび公園の方でね。あの、横溝正史の方は市の方もいろいろ入られて計画をされているようなんですが、まきび公園の方はまあ献茶会とそれから全国の棋聖戦の話がありましたが、その時も我々が出て案内をしております。

で、私が思いますのにやはりシンボリックなものが欲しいなど。それで今総合公園の野球場の裏にですね、立派な真備の像がひっそりと立っているのですが。あの、たけのこ球場のバックネット裏の後ろの方に、あの道路を新本の方に越す右側にあるんですが、初めにあそこが公園になった時にはあそこで意味があったんだと思うんですが、今は木が茂ってあまり道路から見えませんが、野球に来られた方があそこに寄られるようなことも無いようなので、できればまきび公園のどこか良い所へ引越していただけないだろうかあと。その件で動きかけたんですが、台座を見ましたら、個人の寄贈の部分もあつたりしまして、ちょっと市の方で検討していただけないかなというのが1点と、それから公園の中で、トイレが特に献茶会などでは和服の方が大勢来られるので、なかなか洋式になっていないので使いづらいという、また数も少ないというようなことで、トイレの改良を。それから春は桜、新緑それから秋は紅葉と見どころも増えたんですが、せっかく日中友好のぼたん園がだんだん寂しくなっているの、そのあたりの手入れ、それから茶室の効果的な活用、そういった部分で市の方でもう少し動いていただけたら大変ありがたいなと思っています。以上です。

《市長》

はい、ありがとうございます。最初の吉備真備さんの引越の件で、私もまじまじと見たことは無いんですが、バックネットの裏のちょっと高くなった所ですよ。でも支所と、まきび公園じゃあちょっと近すぎるんじゃないですかね。私は支所の前の真備さんが立派だからいいと思っているんですけど。(Fさん：役場から公園には人は来ないんです) まあ、そうですね。用事がないと支所には来られませんからね。なるほど、わかりました。そこに置かれた経緯とかをちょっと調べてみます。

ボランティアガイドの活動、ありがとうございます。トイレの事を言われたんですけど、実はこれまでも特に献茶会の関係の皆様方から、公園のところのトイレの洋式化と、それから皆さん献茶会の時に着物で来られますので、特に女子トイレの方が扉が狭いので、いろいろ難しいというお話などもいただいておりますので、今年は献茶会に間に合うように、扉も広くして中に押し込んで開くようになっているのを外開きにして入りやすいようにして、洋式も入れて、一部和式も残さないといけないんですけど、改修という事になっておりますので、安心していただければと思っております。それから、茶室の活用と、ぼたんのところは、前はよく咲いていたんですけど最近咲いていないなあと思っているんですが。

《参加者 Fさん》

茶室の件なんかも、ある時ガイドの会で招待したお客さんが、あそこを使わせてくださいとお願いしたら、「お宅は登録されていない団体だから、使用料をください」ということになって、担当のところ抗議をしたら、「わかりました、役場が借りる行事にして使ってください」といって一件落ち着いたんですが、なんかすっきりしないなあ。せっかく市民のための施設なら、もう少し利用しやすいように改善が要るんじゃないかなと思います。

《市長》

なるほどですね。それで、ちょっとお聞き及びになられているかどうかなんですけど、まきび公園とたけのこ茶屋とその茶室とかまきび記念館、今管理がばらばらで、上手く整合性がとれないところとか課題が出てきておりますので、一緒にお願ひした方がいいんじゃないかというお話に市議会の方でなりました、この4月から、管理組合という所だと思ったんですけど、一つの団体にお願ひをして、一体的に使っていただきやすいように、まあ、もちろんこれまでしてくださっているところも関わってくるとは思いますけれど、そういう形になりますので、今よりは使いやすくなるのではと思っております。ちょっと、詳しい規約とかも見てないので判らないんですけど。

《参加者 Fさん》

指定管理になるという事は聞いております。利用の仕方についてはその管理になると思うんですが、トイレの改修ことはお金のかかることですので……。

《市長》

わかりました。市の建物になりますので、茶会に間に合うように、しっかりやらせても

らいますので。それからぼたんの事は、調べてみます。

《参加者 G さん》

お話の途中なんですけど、ぼたん園に関しては私もすごい気になっていて、町内の人でもあそこにぼたん園があることを知らない人が多いんですよ。まあ地区にもよるんですが、あそこは箭田地区なので、箭田の方はご存知かもしれないんですけど、西の方の地区になると知らない方が多くて。私としては吉備郡真備町という一郡一町の名前が好きで、こっちに来た時にずいぶん行って見たんですが、で、役場に言ったことがあるんです、「手入れはどうなっていますか？」って。土はガチガチだし、花は去年の春咲くのが少なくなって、芍薬に負けてしまっているんですよと行って言ったんですが、土そのものの手入れとか、そういうもののノウハウがないみたいで、せっかくの中国との友好のということで作ったまきび公園なのに、それがずいぶん薄れてしまっているという感じがして、もう少し真備町と中国、吉備真備さまのつながりという物をもう少し前に押し出すことができないのかなあと、昔に比べて倉敷市になってしまって消えてしまったような気がして、一度進言をしに行ったんですけど。すいません、話の途中から。

《市長》

とんでもないです。ありがとうございます。ぼたん園につきましては私も気になっておりますので、何とかならないのか検討してみたいと思います。ただ、地区の皆さんにも人手のいる時にはご協力をお願いできればと思いますので。ちょっと、土を掘り返したりしないといけないんじゃないかと思いますが、まず調べてみたいと思います。

《参加者 H さん》

まちづくりにおります、Hと申します。避難場所についてちょっとおたずねしたいんですけど、今菌地区には菌の小学校と菌の分館とまきび荘と3カ所あります。マービーふれあいセンターというのは、これ広域避難場所になっているんですね。マービーふれあいセンターは真備町の中心にあるんじゃないかと思うんですけども、近くにいて遠くの場所に避難しなくちゃいけないと。たしか避難場所がいっぱいになってから、その次に広域避難場所を開放するという事になっていると思うんですけども、近くにいて遠くのところに避難しなくちゃいけないというような事から、ここも一般の避難場所として開放できないかということをご希望したいなと思います。

《市長》

はい。実は、同じ質問を水島の福田公園という大きな総合公園があるんですけど、その地区の方からも言われるんですけど、大きな広域避難場所の位置づけというのが、めったには無いかもしれない、例えば大きな災害が起こった時に、そこに自衛隊が来て展開をして、それでいろんな救援活動をするというのが広域避難場所という事になるんです。それでマービーは明らかに真備地区の中ではそこ、例えば福田の公園のところもそうですが、そこに赤十字が来たり自衛隊が来たりっていう展開する場所として何カ所かを指定しないとけないということで、マービーは真備地区の中の一番の要の場所という事になっています。それもあって、近くの場所なのに一時避難場所ではないという事になっているんで

すよね。図書館に避難するというわけにもいかないですよ。一部だけでも、というわけにはいかないのかな。どの災害かにもよりますけど、マービーふれあいセンターは海拔10mですよ。うーん。一番安心なのは野球場なんですよ。でも野球場も広域避難場所にもちろんなっています。ですから、洪水ばかりではないですので、洪水のときには自衛隊とかが展開する広域避難場所は、野球場だと思います。けど洪水でないとき、大規模な地震が来た時で洪水の恐れのないときには、明らかにマービーがそういう、人命救助などの活動をしたりするところになると思いますので、そこに指定されているんじゃないかと思います。そこを地域の避難所にするというのは、どうでしょうか、近いのに利用できないのかという事ですよ。ちょっと根本的なことにかかわると思いますので、防災と相談してみたいと思います。

(参加者：すみません。そのハザードマップはいつごろ広報と一緒に配布されたんでしょうか?) はい、たしか去年の9月に全世帯の方に。で、無かったら支所の方にもありますので。今日も何部かありますので、持っていない方は持って帰っていただいで大丈夫です。今だったら「洪水だったらここに避難してください」とか「地震だったらこの避難所は大丈夫です」とか、○とか×とか書いてあります。市内の小学校と中学校の建物については耐震化は平成27年度までに終了しておりますので、地震のときには大丈夫です、安全な避難場所という事になりますので、よろしくをお願いします。

《参加者 I : さん》

(ふれあい) サロン活動をしています。〇〇サロンの I と申します。私たちは活動してもう3年になりまして、人数が20名弱なんですけど、委託料がちょっと少ないので、人数割りくらいの計算でいただけたらなあと思って、ちょっと苦しいんですが。(市長：今市の3万円の分は申請していただいているんですね) はい、してます。で、今度また更新するんですけど、18名、20名足らずなんですけど、3万円じゃあちょっと苦しいので、あの少ない所も3万円、多い所も3万円なので、これはちょっと不公平さがあるんじゃないかなと、人数割りか何かでお願いできたらいいんじゃないかなと思うんですが、ちっちゃいことすみません。

《市長》

いえいえ、大変重要なことです。ふれあいサロンの活動は倉敷市内でも大小あるんですが、400近く市内全域であるんですね。このうち登録しているのが200くらいですかね。で、登録のところが市から補助金がすみません、3万円少ないんですけどそれをさせていただいています。それで、今人数のお話とか、あと活動の回数などによって、例えば20人を何人か超えたらいくらかプラスできないかというお話がずっとあったものですから、今年4月から回数とか参加人数とかで、たしか1万円か2万円くらい参加人数とか活動の回数によって少し増えるような制度を今回の市議会で認めていただいたので、この4月から更新される時にまた相談していただいで、ふれあいサロン活動で例えば子どもさんとかも参加していただいで、3世代交流とかを何回か入れていただくことで地域の交流も増えるなどということで、今まだ要項を作っているところだと思いますけれど、要項ができましたらまたお知らせをいたしますので、今よりは増えるんじゃないかと思います。活動ありがとうございます、よろしくをお願いします。

《参加者 J さん》

環境衛生でお世話になっております。二万出身の J でございます。さっきツデーマーチについて、環境としてはその一週間前に真備地区一斉のゴミゼロキャンペーンできれいな真備町を見ていただくというかたちで活動しておりますし、(市長:ありがとうございます) 今後も第一日曜日を行事としてやっておりますので、あんまりツデーマーチの日程が変わると困るなという心境を持ちながら活動しております。

私が申し上げたいのは、今日も倉敷市民憲章というのを今頃何かの行事の時に添付されたり発声されたりする機会が多くなっております。それで、旧 3 市合併して 29 年度がちょうど 50 周年になるということで様々な行事を計画されておるようですけども、これの見直しというのは多分入っていないんだろうと思うんです。(市長:今のところは入ってないです) その 42 年の 5 年後の 47 年に制定されておると。その制定の 1 に環境に関係する「自然を生かし緑を・・・」というのがあって、環境衛生協議会も 47 年に発足してるんです。そういう関係があってですね、市長、4 期目だったら 5 年後はまだ現職でおるということも見ながらですね、市民憲章制定 50 年というのが 5 年後に来るんですね。その時に今の時代とか 50 年経ったらさうとう内容的にいろいろ違和感のあるところがありますので、そういうところを見直すという絶好の機会だと思うんです。3 市合併 50 年は市民憲章制定では 45 年になるんで、そこで多分してないんだろうと思っておったんですけど。今度は市民憲章制定 50 年いうたら 5 年後になりますんで、今の中で私が特に気になるのが、環境の問題、多少の問題はあるんですけど、2 番に「老人に安らぎを」という言葉があるんです。私も後期高齢者なんで・・・そんなに活動するなど、出しゃばっちゃいけんと、おとなしくしとけというふうにも取れるような文言なんです。(市長:ちょっと・・・そうですね。なるほど、年長の皆さんにもっと活動してくださいとかに直した方がいいんじゃないかということですかね) しっかり活動の場を提供していただくし、しっかり利用していただいたらいいということもあって、5 年後に市民憲章制定 50 周年に、新しい、みんなで検討した市民憲章にしてみんな何かの時に必ず発声するというようなかたちに、ご期待をしながらご提言させていただきます。

《市長》

どうもありがとうございます。1 番の「自然を生かし、緑と花のあるきれいな環境をつくりまします」が変わっちゃったら、困りますよね(笑) (J さん:そうです。そこは「自然とともに・・・」とかに) 市民憲章の見直しは検討されていないんですけど、たしかに 50 年といえば、その時に見直しということになるかわからないかもしれませんが、いったん振り返って検討してみるっていうのも必要かもしれないですね。たしかに、老人に……。時代が前とは違ってますしね。だいたい年長の方の年齢が 65 歳以上とかじゃなくて、70 とか、この前の新聞では 75 歳だったですよ。定義も変わって行くでしょうから。貴重なご意見いただきました。ありがとうございました。

《参加者 K さん》

呉妹の K といいます。私たちの呉妹は田園風景でのどかでいいんですけど、弾琴祭等するために若い人の力が欲しいんですわ。だけど、地域が調整地域いうんですかね、そのた

めに家が建てられないと若い者が住みにくいというか。その辺をいい方法はないかなと思って考えているんですけど、調整地域を外してもらえるいうか、その辺をちょっとよろしくお願いしたいと思います。

《市長》

ありがとうございました。市街化調整区域と市街化区域の分け方なんですけれど、県の計画の中でこれまでなかなか大きな見直しっていうのは、なされていないという状況にあります。市街化調整区域とそれから、それから、どちらかというとなかなか見直しが難しいような仕組みにもなっております。市街化区域での用途地域については、今の時点でのところだと例えばイオンショッピングセンターとかそういう大規模なものが出て来る時に大きな見直しをする、用途地域について、その地区だけ大きな見直しをするということはこれまでもあるんですけど、市街化区域と市街化調整区域の見直しというのは、今のところなかなか難しい状況ではあります。ただ一方で、市の方からも国や県の方に今言っていたように、若い人に帰ってもらった時に家が建てられないという課題が出て来ていますので、そういうことに基づいた見直しができないかという要望をしているところです。ですので、すぐにできるかどうかというのは何とも言えないかとは思いますが、そういう声が集まってくれば県や国も制度をもっと今よりも簡易に変えていただけるような方に動いてはくれるんじゃないかと思っておりますので、引き続き言って行きたいと思っております。ただ、区域のこともそうなんですけれど、今移住定住のことにも市も力を入れておまして、倉敷市も東京から引っ越して来たいという方がだんだん増えてきてまして、市内の地区の中では、例えば何回か前の市民ふれあいトークで、児島の本荘地区というところがあるんですけど、そこは移住定住希望の方がいたら、優先して紹介をしてもらいたいということを言われているんです。それで、空き家が多くなったりしているみたいで、そこに移住を考えている人がいたら優先して紹介して見てもらって、なるべく住んでもらいたいという地区も出て来ておりますので、そういうご希望をいただけるところがまた増えて来たら優先的に紹介したいと思っておりますので、もし真備の各地区でもそういうお声がありましたらまた教えていただければと思います。

《参加者Lさん》

菌地区の市場のLと申します。私は井上桂園先生の顕彰について、ずっといつも思いを持ってやってきているんですけども、先だって10日ぐらいになると思いますが文化勲章をいただきました高木聖鶴先生が亡くなられて2～3日経って常盤小学校に先生の書が飾られて子どもさんが一生懸命書かれとるというようなのが山陽新聞に出ていたんですけど、是非、菌地区に桂園先生の書を展示してもらいたいと思っております。これは、市会の方にもお願いした経緯もございますけど、なかなかそういうのを受け入れていただけない、まあ設備がどうかということもあるらしいんですけども、たくさん桂園先生の書が眠っているということを巷で聞きますので、眠らすよりはやはり聖地である菌地区に飾っていただいて、少しでも書を親しんでいけるような環境を作っていただければと思います。どうかよろしく申し上げます。

《市長》

どうもありがとうございました。菌分館の方に井上先生の書を飾った方がいいんじゃないかというお話だったと思うんですが、前の時に菌分館の方に桂園先生の書をずっと恒常的に飾ったらというお話もいただいているいろいろ検討したんですけど、非常に貴重なものですので警備の関係がどうなのかなという話になったような記憶がございます。一方で井上桂園先生は本当に日本の国語の教科書の原本を書かれた素晴らしい先生ですので、今書の大会ももちろんしていただいているんですけど、恒常的ではなくても、例えば分館なのかマービーなのか、若しくは市の美術館とかも地元の偉人の方の特集のようなものをしたりする時がありますので、例えば玉島地区で言えば池田遙邨さんという非常に有名な絵画の先生がいらっしゃるんですが、そういう先生については定期的に行ったりしてますので、例えば今後書の関係の皆様ともご相談をして菌の分館だけではなく、多くの市民の方が見るようなそういう会ができないだろうかというようなことをちょっと思ったのですが、そのようなことも検討してみたいと思いました。

《参加者 M さん》

菌地区から参りましたMです。個人的なことでどうしようかと思ったのですが、一言言わせてください。28年の4月1日から29年の3月31日まで役員をされていた方に、うちは地域から外されたのか、去年は回覧板も何もなくて、広報だけは役所に毎月もらいに行きました。その方は今年・来年も役をするとか言われてまして、毎年私レントゲンを受けてるんですけど、回覧の中にレントゲンを受ける時に必要な検診表が入っていて、受けられる人はそれを持ってということになっていると思うんですけど、今年・来年レントゲンの紙は回って来ないだろうと思って、そんな時は市の方から来るハガキだけでレントゲンを受けられるものだろうか、ちょっと思ったんです。そういう場合に市の方のお知らせを郵送をいうかたちにしていただけたらと思うんですけど。

《市長》

なるほど。事情を後でお伺いしたいと思いますので。後で個別にお伺いします。

《参加者 N さん》

2件お願い要望みたいなことになるんですけど、私が高梁川用水土地改良区の役員の方でお世話になることになったんですけど、さきほど柳井原堰とか防災とかいろいろな話で前に進みだしたというのは聞いたんですけど、一級河川である小田川、私の小さい頃には堤防外の田んぼということできれいに田んぼを作っておりました。ですから柳とか雑木というのが全然なかったんです。47年の災害のあった時にはたけのこ橋のあたりがちょっと堤防が切れたというかたちになりました。災害があつてからの避難場所とかいう話はあったんですけど、それを防止するために一級河川である小田川の雑木あたりの整備状況はどういうかたちで進展するのかなと。柳井原堰が完成する時には市長の方ももう60を迎える時代になってしまうんじゃないかという感じを受けるんで。(市長: 足し算が早いですね・笑) 10年がかりで完成すると聞いたもんで。1件はそれです。

もう1件は「安心安全、子育ては真備町で」をキャッチフレーズにしたいと思います。その中で、玉島ではみなと公園、矢掛の方では水車の里あたりで総社は常盤の公園がというかたちで幼児、小学校低学年あたりの遊び場が充実されております。真備町ではあるに

はあるものの、運動公園あたりにあります。それからクリーンセンターあたりにあります。ただ遊具を揃えている今はやりのようなのではないように思います。ここもいきいきプラザの公園、きれいな公園があります。そのまわりにも若干の遊具はあるんですけど、やっぱりよそのいいところを見るとそういうものが欲しいなあという感じに思います。「安心安全、子育ては真備町で」をキャッチフレーズに是非ともそこらへんの遊具の見直しみたいなかたちで整備していってもらえればありがたいなと思います。

《市長》

ありがとうございます。小田川の川の木ですよ。国土交通省の管理なんですけど、これまではとにかく下手（しもて）の方からしかやらないというふうに言われてたんですけど、最近では少しは変わって来て、かなり茂っていると思いますけど、それによって危険なところであれば優先順位から切ったりしましょうということで、本川の方でも少しは上流の方もやってくれるようには少しずつなっています。（Nさん：というのは、警報が出るのは井原地区とか矢掛地区で出ます。真備地区で警報が出るのは少ないんです。大雨警報で矢掛へ降ったら小田川を通っていくということになるので今の雑木が多いところが心配に思います。特に矢掛あたりが国土交通省の兼ね合いで整備されてきたので心配に思っております）わかりました。頑張ります。いっぺんには難しいとは思いますが前よりも環境はよくなってきつつあると思います。一方で今言われたように10年はかかるので危険性の高いところ、ぐらいいも何とかやってもらえればということ（参加者：服部地区は工事してますよ）そうですね。少しずつそういうふうになってきてますので、優先順位を言うと思いますけど、引き続きしっかりお願いしたいと思います。ありがとうございます。とにかく安全安心、子育てしやすいまちということでしっかり頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。

もう8時10分になりましたのでやめないといけないと思いますので。去年倉敷でサミットもやりまして、その時には真備の竹の製品も使いましたし、ビールも麦酒醸造所が作ってくださったのも出して、世界各国の大臣が大変美味しいビールだと言われておりました。いろんな発信を今後ますますやっていきたいと思っております。倉敷市の中で歴史のある真備地区、歴史のまちづくり、住みよいまちということで皆様とともに、今日いただいた様々なご意見がありますので、安全安心、また魅力発信ということで頑張っていきたいと思っておりますので今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。ちょっと時間が遅くなりましたが、今日の市民ふれあいトーク、以上とさせていただきます。これからも皆さんと一緒に頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。今日は大変ありがとうございました。